

アーノ と か 花だん



むかしむかし ちい むらむら
昔々、小さな 村々に
かこ うつく しろ
囲まれた 美しい お城に、
えらい おうさま が す
いました。



おうさま むら ひとびと
王様は 村の 人々を
ここら あい むら
心から 愛していました。村の
ひとびと おうさま だい す
人々も、王様が 大好きでした。
おうさま むら
王様は、しばしば 村を
おとず むら ひと
訪れては、村の 人たちと
おしゃべりしたり、みんなが
どうしているか、聞いたり
しました。



むら ひと
村の 1つに、
アンナという あか げ
女の子が 住んで
いました。アンナは
かわいい ふく 服を き
着て、
かみの毛には カラフルな
リボンを むす
結んでいました。



アンナは ^{がっこう}学校へ
^{かよ}通える ^{とし}年だったのですが、
ことあるごとに ^{がっこう}学校を
ぬけ^だ出していました。
ほかの ^こ子どもたちが
^{がっこう}学校で ^{べんきょう}勉強している
^{とき}時に、アンナは ^{はら}原っぱで
^{あそ}遊んでいました。



ある日のこと。アンナの
むら おうさま
村に、王様が やって
き こ
来ました。子どもたちに
し
お知らせが あると いうのです。
おうさま こ
王様は、子どもたちの
べんきょう
勉強 が はかどっているかを
し
知りたかったので、その
し
お知らせを 子どもたちに
まわ ひとり ひとり こえ だ
回して、1人1人 声を出して
すこ 少
少しずつ 読んで もらうことに
しました。



こ
子どもたちは かわるがわる、
おうさま
王様からの メッセージを
すこ
少しずつ よ
読みました。
よく よめる こ
子も いれば、
むずかしい ことば
言葉が
よ
読めない こ
子も いました。
よ
読めない こ おうさま
子は、王様が
よ
読むのを てっだ
手伝って
あげました。



さて、アンナの ^{ばん}番に
なりました。アンナは ^{ぶん}文の
^{はんぶん}半分も ^よ読めなかったので、
^{おうさま}王様が ^よ読むのを ^{てつだ}手伝って
くれました。

^{おうさま}王様からの ^しお知らせとは、
^{しろ}お城の ^{ていえん}庭園で ^こ子どもたちの
ために ^{ひら}開かれる
パーティーへの ^{しょうたい}招待でした。



パーティーは、^{たの}楽しくて
ステキな ものでした。
ドキドキするような
ゲームを したり、おいしい
ケーキや ジュースも
いろいろと ^だ出され、みんな、
^{こころ}心ゆくまで ^{たの}楽しみました。

パーティーの ^お終わりに、
^{おうさま}王様は ^こ子どもたちの
^{ひとり}1人 ^{ひとり}1人に プレゼントを
くれました。



アンナは、きれいに
かざりつけられた ^{はこ}箱を
もらいました。^{なか}中を ^み見ると、
^{はな}花の ^{たね}種が ^{はい}入った ^{ちい}小さな
^{ふくろ}袋が ^{はい}入っていました。
アンナは ^{おも}思いも しなかった
プレゼントに びっくり。
^{なに}何かの まちがいでは
ないかと ^{おも}思いました。でも、
^{とも}友だちが ^{はこ}箱に ^{はい}入っていた
^{てがみ}手紙を ^よ読んでくれました。



あい
愛する アンナへ、

これは、^{きみ}君への プレゼントだよ。

この ^{たね}種を、^{きみ}君の ^{いえ}家の ^{にわ}庭に

まいてごらん。^{こん き}根気よく

こまめに ^{せ わ}世話すれば、^{たね}種は

^{そだ}育て、きれいな ^{はな}花を

さかせるよ。そのうち、^{きみ}君の

^か花だんを ^{み い}見に行くからね。

^{こころ}心を こめて、^{おう}王より



つぎ ひ
次の日、アンナは 小川の
ほとりに すわって、もらった
プレゼントを ながめていました。
そして、どうして 自分が こんな
プレゼントを もらったのだろうと
かんが 考えていました。草花なんて、
いま そだ 育てた ことさえ ないのに…。

とき
その時です。かわいらしい
ちい 小さな 天使が 現れました。そして、
おうさま 王様が この プレゼントから、
アンナに まな 学んでほしい ことが
あるのだと おし 教えてくれました。



「^{あた}新しい ^{こと}を ^{まな}学ぶのには、
^じ時間 ^{かん}が ^かかるわ。^よ読み^か書き・
^{さん}算数^{すう}もね。^じ時間^{かん}を ^かけて、
^ここつ^つと ^{やる} ^{ひつ}必要^{よう}があるの。
^は花^なを ^そ育て^だたり、^に庭^わの ^せ世^わ話を
^すする^も、^お同じ^よ。^け結果^かが
^{あら}表^われるのには、^じ時間^{かん}が ^かかるの。
^だけど、^{こん}根^き気よく ^せ世^わ話すれば、
^やがて、^ききれいな ^は花^なで ^いっぱいの
^すステキな ^か花^なだんに ^ななるわ。」



そう ^い 言うと、^{ちい} 小さな
^{てんし} 天使は ^{あらわ} 現れた ときと
^{おな} 同じように、パツと ^き 消えて
しまいました。アンナは、
^{おうさま} 王様が ^い 言ったように、
^{にわ} 庭に ^か 花だんを ^{つく} 作って、
^{たね} 種を まいて みることに
しました。



アンナは、毎日^{まいにち} 花^かだんに
水^{みず}を やりました。何^{なんにち}日も

かかりましたが、ついに、
小^{ちい}さな 緑^{みどりいろ}色の 芽^めが 地^じ面^{めん}から
顔^{かお}を 出^だしました。日^ひに日^ひに、
芽^めは 少^{すこ}しずつ のびて、
葉^はっぱも 出^でてきました。
そして ついに、花^{はな}の つぼみが
つくまでに になりました。



アンナは、花だんの
^{くさばな}草花が こんなに よく
^{そだ}育ったので、うれしく
なりました。そして、^{ちい}小さな
^{てんし}天使の ^い言っていた ことを
^{おも}思い出しました。読み書きや
^{かず}数を ^{まな}学ぶのには ^{どりよく}努力と
^{じかん}時間が いるように、まいた
^{たね}種が ^{せいちょう}成長するのにも ^{じかん}時間が
かかると ということです。



アンナは、勉強^{べんきょう}も もっと
がんばって やろうと
おも^{おも}いました。それで、
がっこう^{がっこう}から 帰^{かえ}ると、花^かだんの
ま^まなか^{なか}に すわって、
いろ^{いろ}色とりどりの きれいな
はな^{はな}たちに ほん^{ほん}を よ^よ読んで
あげたりしました。



ある日、王様が アンナの
花だんを見に やって来ました。

「見事な 花だんじゃのう、
アンナ！」と 王様が 言いました。

「ありがとうございます、王様。」
アンナは ていねいに 答えました。

「学校でも 勉強を がんばって
おるそうじゃの。」と 王様が
付け加えました。

アンナは うれしそうに
うなずきました。



「アンナ。そちは ^か花だんを
^{じつ}実に ^せよく ^わ世話した。」と
^{おうさま}王様が ^い言いました。

「それでだが、女王の ^{じょおう}花園の
^せ世話も ^て手伝いたいかのう？
そうすれば、城の ^{しろ}庭師から
いろいろと ^{おそ}教わることも
できよう。それに、そちの
^か花だんに ^{あた}まく ^{あら}新しい ^{たね}種も
もらえるぞよ。」

アンナは ^{よろこ}喜んで ^{しょうち}承知しました。



まいしゅう か よう び もくよう び
「毎 週 火曜日と 木曜日には、
うちの 庭師^{にわし}に そちを むかえに
来させよう。女王^{じょおう}の 花園^{はなぞの}の
世話を 手伝い^{てつだ}に 行ける
ようにな。」 王様^{おうさま}は
ほほえみながら、こう
つけ^{くわ}加えました。「もちろん、
宿題^{しゅくだい}が 終わ^おった後^{あと}でじゃ。」

おうさま よろこ
王様は、アンナが 喜んで
あた^ら新しいことを 学^{まな}んだので
とても 誇^{ほこ}りに 思^{おも}っていると
い^い言いました。

文と絵: デイディエ・マーティン
Copyright © 2010年、デイディエ・マーチン
"Anna & the Flower Garden"-- Japanese
<http://jacques-mylittlehouse.blogspot.com/>

